

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学) 研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

「記憶」化される炭鉱：筑豊炭田の事例を中心に
——NHKアーカイブス学術利用トライアル研究から——

甲南女子大学 木村至聖
shisei2@konan-wu.ac.jp

2013/5/19 1

1 はじめに

- 1.1 研究の背景と目的
- 2011年5月、山本作兵衛の炭鉱記録画が「世界記憶遺産」に
- ⇨近代の記録資料は散逸の危機(中澤2012)
- テレビは炭鉱をいかに「記録」してきたのか
- テレビが炭鉱をいかなる「記憶」として構築してきたのか

2013/5/19 第64回関西社会学会大会(於・大谷大学) 研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報 2

1 はじめに

- 1.2 先行研究と本研究の位置づけ
- マスコミ研究とカルチュラル・スタディーズ
- 映像・音声・文字の複合によって構築された社会的現実(伊藤編2006)
- 本研究は、個々の番組内の記号の意味作用だけでなく、**アーカイブズの編成**に注目
- 検証されにくい「記憶」⇨「記録」の二次分析

2013/5/19 第64回関西社会学会大会(於・大谷大学) 研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報 3

2 データと方法

- 2.1 データの概要

表1 キーワード検索結果(件)

	炭鉱	炭坑	炭部	石炭	産炭地	炭田
全体	681	386	10	1009	8	81
タイトル	88	29	1	59	0	10

NHKアーカイブス学術利用・関西トライアルⅡ 『テレビ番組における産炭地の表象とその変容に関する研究』

→146番組を抽出、閲覧

2013/5/19 第64回関西社会学会大会(於・大谷大学) 研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報 4

2 データと方法

- 2.2 番組制作の社会的背景

表2 時期区分と石炭政策

時期	石炭政策	出来事
I: 善給実施期(1949-58)	石炭鉱業合理化臨時措置法(1955)	
II: スクラップ・アンド・ビルド期(1959-67)	炭価1200円引下げ石炭合理化計画(1959)	三池争議(1960) 戦後最高の出炭量(1961)
	第一次(1963-65)	原油輸入自由化(1962)
	第二次(1965-67)	
III: 縮小均衡期(1968-72)	第三次(1967-69)	石炭対策特別会計創設(1967)
	第四次(1969-73)	なだれ閉山(1969-71) 急速な円高
IV: 石炭見直し期(1973-81)	第五次(1973-76)	第一次石油危機(1973) 一般炭輸入開始(1974)
	第六次(1976-82)	第二次石油危機(1978)
V: 需要に見合った生産体制期(1982-91)	第七次(1982-86)	プラザ合意(1985)
	第八次(1987-91)	鉄鋼業界による引取協力終了(1990)
VI: 構造調整及び段階的縮小期(1992-2001)	ポスト第八次(1992-2001)	太平洋閉山、石炭六法失効(2002)
VII: ポスト石炭政策期(2002-)		夕張市財政破綻(2006)

2013/5/19 第64回関西社会学会大会(於・大谷大学) 研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報 5

2 データと方法

- 2.3 データの分析軸——筑豊炭田への注目
- 天然資源の賦存状況が各炭田の性格を決定
- 地理的(炭田ごと)差異が大きい

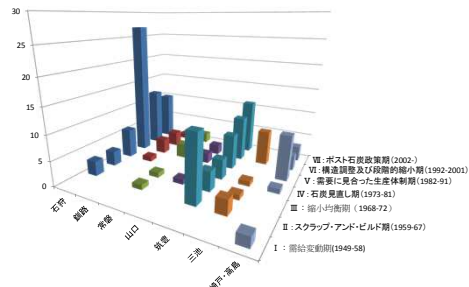
表3 昭和32年時点の全国の炭田の状況

炭田名	炭鉱数(うち中小)	生産量(万トン)(全産シエラ%)	炭田の中小炭鉱の生産比率(%)	炭田(炭層・傾斜・深さ)			炭質(cmf/g)
				層厚	傾斜	深さ	
石狩	100(62)	1242.2(24.4)	12.3	中	急・中	深	6027
留萌	11(6)	112.6(2.2)	62.3	厚	急・中・緩	中	6140
釧路	27(19)	202.7(4.0)	10.2	厚	緩・急	中	6053
常陸	94(83)	430.0(8.4)	29.2	中	緩	中	5254
山口	63(59)	253.1(6.9)	44.5	中・薄	緩	浅	4644
筑豊	266(234)	1497.4(29.4)	29.3	薄	緩	中	6076
福岡	31(26)	164.2(3.2)	51.2	薄	緩	浅	6191
三池	2(1)	219.3(4.3)	0.9	厚	緩	深	6832
鹿津	54(46)	247.5(4.9)	46.0	厚	緩	中	6146
佐世保	114(108)	381.6(7.5)	76.8	薄	緩	浅	5933
崎戸	9(4)	242.7(4.8)	5.7	厚	緩・中	深	7228
高島							

2013/5/19 第64回関西社会学会大会(於・大谷大学) 研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報 6

2 データと方法

- データの全体的な傾向(番組数)



2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

7

3 データの分析

- 3.1 筑豊を中心とした分析—社会問題という枠組み
- IV期まで現役の炭鉱があったにもかかわらず、番組になるのは「閉山後」が中心
- 三池争議への社会的関心の一方で、あくまで筑豊の弱状に注目する

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

8

3 データの分析

- 「一年ほど前のことです。黒い羽根の運動を契機に、炭鉱地帯の失業者のことが急にジャーナリズムにクローズアップされました。ヤマの人たち、子どもたちを救え。おびたさい活字と写真が氾濫しました。しかし間もなく、この人達のことはニュースの世界から消え去りました。三池争議が起きたからです。すべてのジャーナリズムの目はこの地点に集められました。」[2]「黒い地帯—その後の炭鉱離職者たち」(1960年)

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

9

3 データの分析

- 「あれほどの大争議を経験しながら、豊富な石炭の層を持っている三池は、合理化政策をのりこえて、再び立ち上がりつつあります。しかし、(中略)この地帯(引用者註:筑豊)は、中小炭鉱が多く、合理化政策に抵抗する暇もなく、ばたばたと倒れていったのです。」[4]「黒い墓標—石炭産業合理化の断面」(1961年)
- 「彼ら(引用者註:筑豊の炭鉱離職者)にとって、地獄と言われた三池は実に羨ましい存在なのです」[4]「黒い墓標—石炭産業合理化の断面」(1961年)

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

10

3 データの分析

- 3.2 筑豊の「記憶」化
- IV期以降、石炭産業の中心は九州(筑豊)から北海道(石狩)へ…番組も
- 「天の声」の如きナレーションに代わり、山本作兵衛ら、現地の当事者が直接「記憶」語る
- スティグマではなく、「記憶」の承認を要求

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

11

3 データの分析

- 「爆発や落盤にあたり、戦争にとられたり、年とったりしてみんな死に絶えた。やがてボタ山は平地になり自然に還るだろう。ヤマの暮らしやボタ山を知らない子どもたちも生まれてくるだろう。六十を過ぎて私はこの大きな動きを体験した。だから私は絵を描く気になったんです。」[13]「ぼた山よ」(1967年)

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

12

3 データの分析

- 3.3 ブラックボックスとしての「記憶」
- IV期からすでに、リポーターなど**第三者**が介入して、「記憶」を伝える番組
- VII期には、若い世代や部外者による「**記憶**」の**継承**
- →しかし、番組はその継承の**プロセスを記録するのみ**で、「記憶」の具体的内容に踏み込まない...「記憶」の**ブラックボックス化**

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

13

3 データの分析

- 「やっぱ炭坑節を凄く大事に思っとる人にですね、僕一回怒られたんですね。(中略)そんな軽い気持ちでしてくれるなって言われてですね。それから結局、色んな炭坑の事を知っとる人の所に話を聞きに行つて、当時の面白可笑しいだけやないでやっぱ悲しい事もあるし色々辛いこともある。それも全部炭坑節っていう歌が抱えとるつちゅうかですね。それを教えてもろて、そっからですよ。】【43】「NHKアーカイブス 炭坑節が生まれた町～福岡県田川市～」(2007年)

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

14

3 データの分析

- 「正調炭坑節の心っていいですか。労働者の心は失わんでくれて、私言っておりますけども、(彼らは)良く理解しております。はい、嬉しいですね。今の若い人たちもやっぱり炭坑の血が流れてるっていう感じですよ、はい。】【43】「NHKアーカイブス 炭坑節が生まれた町～福岡県田川市～」(2007年)

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

15

3 データの分析

- 「あと4年で本当に鉄塔が建つのかどうか。スタッフも川俣さんもそのことをあまり重要なこととは考えていないようです。本当に大切なものは、一緒に一つのものを作っていく時間。スタッフも川俣さんもその時間こそが作品なのだと考えています。】
- 【38】「美術家・川俣正一10年がかりのアート・プロジェクト」(2002年)

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

16

3 データの分析

- 3.4 再び「記憶」が語るもの
- 番組の当初の意味づけでは背景化されていたもの
- →労働への意欲、炭鉱社会への愛着、多様な労働運動の可能性...

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

17

3 データの分析

- 「なんぼ破れ家でも、住めば都よ我が里よって、昔の歌の通りですね。職はない食べるものはない、貧乏してでも、やっぱこの破れ家が忘れられんのですよ。】【8】「筑豊の女」(1964年)
- 「自分の身体のかなう限りは働いて若い者に加勢してやりたい」【8】「筑豊の女」(1964年)
- 「死ぬまではこの地下足袋は離したくないと思っております」【8】「筑豊の女」(1964年)

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

18

3 データの分析

- 「この廃坑地帯に将来どういった労働運動が広がっていくのだろうか。筑豊はそういった意味からも注目されるのである。」【7】「廃坑からの手紙—筑豊の労働運動を中心に」(1964年)(※放送時ナレーション)
- 「腰のすわった自立した労働運動という面からみると、一度組織の壊滅をくぐっている筑豊は運動の宝庫なのである。」【7】「廃坑からの手紙—筑豊の労働運動を中心に」(1964年)(※台本)

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

19

4 結論

アーカイブの意義:「記録」と「記憶」

- ドキュメンタリー草創期には、啓蒙的なナレーションが筑豊の窮状を「社会問題」として構築
- →1960年代後半以降、番組は人々に寄り添うようになり、「記憶」化の行為や語りを直接記録
- →しかし、「記憶」の主体の世代交代とともに、**番組は単なるプロセスの記録に...**「記憶」のブラックボックス化

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

20

4 結論

アーカイブの意義:「記録」と「記憶」

- ブラックボックス化した**「記憶」の陥穽**
- ...「記憶」の産業化、搾取(Stigler2004)
- ⇨労働者や地域の誇りの回復のため
- アーカイブ化された**「記録」のポリフォニー性**
- →「記録」から「記憶」を問い直す可能性、近代日本社会の自画像をとらえなおす契機

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

21

- ご清聴ありがとうございました

2013/5/19

第64回関西社会学会大会(於・大谷大学)
研究報告Ⅱ コミュニケーション・情報

22